

主要発言要旨

目的 「さらなるグローバル化が生活水準を向上させるのに何ができるのかを分析することが重要と考える。つまり、その恩恵をより十分に享受し、これをより公平に分配し、そのコストを抑え、付随するリスクを回避するには何が必要かを考える」

キャッチアップ 「新興市場及び途上国・地域が、（先進国に）追いつく高速軌道に戻ることを支援するより大きな努力が必要だ。これは世界で数十億人の人々の将来展望を明るくし、世界成長のエンジン役も果たすことになるだろう。これは先進国の人々含め誰もの利益となる」

新成長エンジン 「総合するとこれらの諸国は世界の新成長エンジンになれる可能性がある。たとえば、現時点で合計すれば GDP が 4 兆ドルとなる 10 から 15 のこれらの国々が年率 6% の成長を達成すれば、ユーロ圏の潜在成長率での成長よりも世界経済の成長を押し上げることになるだろう。こうした国の候補にはベトナム、バングラデシュ、フィリピン、インドネシア、ペルー、コロンビア、エチオピア、ナイジェリアなどを含むことができよう」

協力 「簡単に解決できるとの空約束が軽視されるようになると、国家指導者らが単独で行動しても、国民が望み、必要とすることを実現、提供する力をもはや持ち合わせていないという厳しい現実がある。この真実は今日、極めて多くの課題で見受けられる」

新たな改革 「融資を活用し、世界的にインフラを構築することを支援するとの幅広い合意が形成されて 4 年経過したが、国境間にまたがるプロジェクトへの融資は実際減少している。世界のインフラインシアティブにとって、資本がこれほど安く、潤沢にある今日より良い時はほぼ考えられないにもかかわらずだ」

対話 「われわれは全員、政治家と一般国民に対し、グローバリゼーション（グローバル化）の恩恵を伝えること、及び力の限りそれに伴う副作用と脆弱性に対処するための支援で、一層の努力を重ねる必要がある」

主要メッセージ

1. グローバル化は依然効用があるが、それに伴う経済面、非経済面での試練に対応する必要がある。

- ・ **格差解消の再活性化:** 主要新興市場国・地域の所得水準は、今や先進国のそれに追

いつく勢いに欠けている。これはグローバル化のもたらす恩恵の約束と矛盾するように見える。

- **何ができるのか?** 通常の処方箋、つまり各国が自国の問題を自前で解決するだけでは不十分で、主要な要素は極めて景気循環的なものである可能性が高い。
- **それゆえ、集団的な行動が必要となる:** それは第 1 に、より強力な金融セーフティネットで、とりわけ新興市場及び途上国・地域にとり必要である。第 2 に資本フローの行き過ぎた変動への対応、第 3 に先進国から新興市場・途上国への技術移転の加速だ。

2. 明るい側面

- **中国は引き続き**世界成長の源泉であり続けるだろう。インドもそれに似た役割を担う可能性を持っている。
- **数字にみえる力強さ** : 10 から 15 の小さな国がテイクオフを始める可能性が考えられる。これらの国は若いダイナミックな人口構成となっており、教育水準も急速に引き上げている（主要発言を参照）

3. 政治経済的試練

- 協力と統合の機会をより適切に伝える。
- **貿易と金融の保護主義は自らの首を絞める;** 世界的な解決策を信じなければ前進はない。